

強者の戦略

日本の農業に関する次の文章を読んで、以下の問い(問1～5)に答えなさい。

日本の農業は、耕地面積の縮小、農業従事者の減少や高齢化など、多くの問題をかかえている。また、近年では、外国から日本国内に農産物が大量に輸入されて、ますます日本の農業は厳しい状況に直面している。しかしながら、日本の農業は、①地産地消や②6次産業化など、新しい方向も追求している。

問1 次の図3は、日本、アメリカ合衆国、カナダ、イギリス、ドイツについて、カロリーを基準とした食料自給率の変化を示したものである。日本に該当するものを、ア～オの中から、一つ選んで答えなさい。

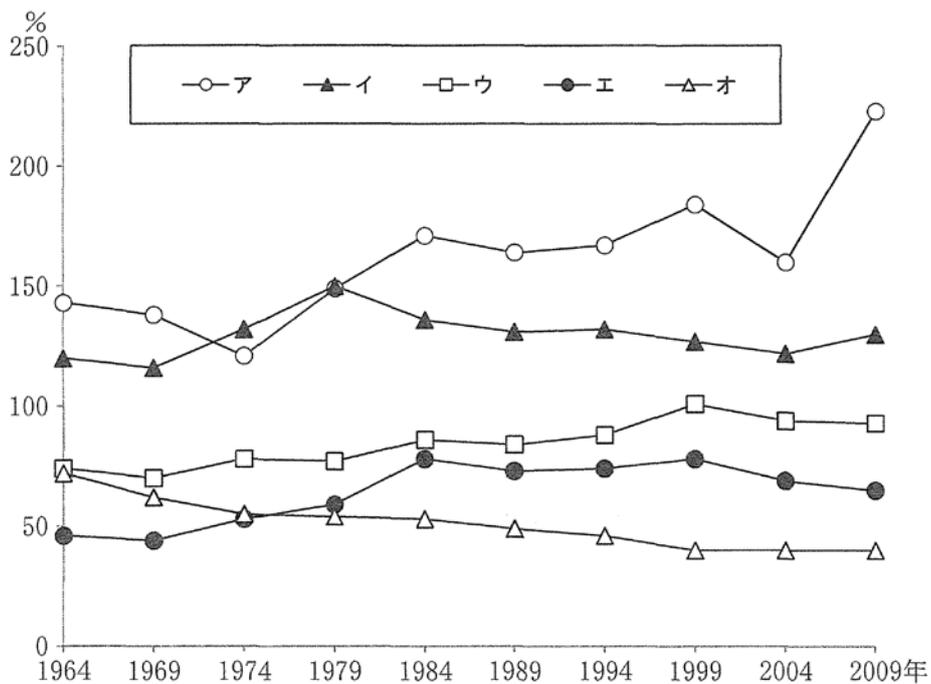


図3

農林水産省の資料による。

問2 下線部①の地産地消が、日本において近年追求されている理由を述べなさい。

問3 下線部②の6次産業化は、1次産業と2次産業と3次産業を組み合わせた新しい1次産業のあり方を意味している。次の用語の中から、三つ以上を用いて、日本における農業の6次産業化について説明しなさい。

道の駅 農産物直売所 加工品 農家レストラン 農業体験

強者の戦略

問4 米は、日本では、自給率の高い農産物の一つである。次の表2は、2010年度における米の収穫量が上位の道県を示したものである。これらの道県において米作りが盛んな理由を述べなさい。

表2

順位	道県名	収穫量(トン)
1	新潟	617,800
2	北海道	601,700
3	秋田	488,500
4	福島	445,700
5	山形	406,500

農林水産省の資料による。

問5 次の図4は、日本の山間部における傾斜地の水田景観である。このような水田景観の名称を答えなさい。また、このような景観が日本の山間部に見られる理由を述べなさい。さらに、このような土地利用が環境保全に果たす役割について述べなさい。



図4

農林水産省の資料による。

強者の戦略

前置き文

先日、NHKの「サイエンス ZERO」という番組で、“長生き雲”という存在を知りました。なかなか興味深い内容だったので、少しだけお話ししましょう。

雲が発生するには上昇気流が発生するだけではダメで、空気中に雲の種、すなわちエアロゾルが存在していることが発生条件の一つになります。空気中に浮遊する塵や砂、細菌などが例として考えられていて、この微粒子であるエアロゾルを核として雲が形成されていくそうなのです。ところが、空気中に過度にエアロゾルが分布していれば、そのそれぞれに水の粒子が分散してくっつき薄い雲にしかならず、大きくて高度が高くなる雲への成長を阻害します。大きくなった雲の塊は自分の重みに耐えられず、雨となって地上へ下降しますが、薄い雲は雨を降らさないので長い間上空に居座り続けます。中国や日本などは産業活動が活発で、エアロゾルの量も多くなっており、“長生き雲”が今後どのように気候に影響を与えていくかが、注目されています。

この番組で長い間の疑問が少し晴れました！何度も北京を訪れていますが、完全に晴れている日ってあんまりなくて、薄曇りの日ばかりやなーって思っていたのですが、原因は“長生き雲”だったようです。みなさんも是非北京を訪れて、冴えない感じの上空を眺めてみてください(笑)。

でも、このエアロゾル、気温を低下させる能力を持っているそうですよ。今後の研究に期待ですね。以上の話とはまったく関係ないですが、日本の農業に関する面白そうな問題を見つけました。2014年首都大学東京前期理系第3問です。「地産地消」や「6次産業化」などの新しい言葉が出てきていますので、柔らかい頭でチャレンジしてみてください！